

白神ねぎ



○長ねぎ栽培について

【病害】
本格的な梅雨入り前の「べと病」防除を忘れずに!!
リドミルゴールドMZ、フォリオゴールド、レーバスフロアブルなど
※近年はさび病も見られますので要注意。

軟腐病・白絹病の予防について
薬散の仕方

・軟腐病 → オリゼメート粒剤
(通路へ散布後土寄せ)

・白絹病 → モンカット・モンガリット粒剤
など(土寄せ後株元へ)

【害虫】

今後気温が高くなれば、害虫の発生が多くなるので注意。

・ネギハモグリバエ リーフガード顆粒水和剤、
ベストガード粒剤など

・ネギアザミウマ ダントツ粒剤、ハチハチ乳剤、
アグロスリン乳剤、
ディアナSC など

※害虫の食害痕が軟腐病の原因にもなり得ます!!

※干ばつの影響で虫の発生が多いため要注意!!

白神山うど



○山うど栽培について

【植え付け後の管理】

・除草を兼ねて定期的に畝間部分を中耕し、雑草を抑えましょう。
・6月中旬から下旬(草丈で50~60cmの頃)に除草を兼ねて畝間部分を中耕し、1葉目が隠

れる程度に培土します。
・7月上旬~中旬に除草を兼ねて2~3葉目が隠れる程度に培土します。
極端に多く培土するとのぼり芽が多くなるので注意して下さい。
・中耕・培土を行う際、生育の悪い場合は追肥用化成(S646など)でN成分3~5kg/10aを追肥して下さい。

白神みょうが



○みょうが栽培について

根茎腐敗病対策として、ユニフォーム粒剤をまだ散布していない方は収穫30日前まで散布し

て下さい。
10a当たりの散布量は18kg、使用回数は2回までとなっていますので、使用量、使用時期、使用回数に注意して、雨降り前に散布して下さい。

白神きゃべつ



○きゃべつ栽培について

コナガ・アオムシ等の防除については、より高い防除効果を得るためには、若齢幼虫期からの防除を実施しましょう。
また、菌核病については前年に発病が見られた圃場では、結球始期からの予防に努めましょう。

【コナガ・アオムシ】
ハクサップ水和剤 1000倍~2000倍(収-前日)
コテツフロアブル 2000倍(収-前日)
フェニックス顆粒水和剤 2000倍~4000倍(収-前日)

【菌核病】
トップジンM水和剤 1000倍~1500倍(収-3日前)
アフエツフロアブル 2000倍(収-前日)
オンリーワンフロアブル 1000倍~2000倍(収-前日)

農業簿記ソフト「ソリマチ」を利用した 農業経営管理支援システム申し込みについて

随時、税務申告支援について申込みを受付けておりますので、申込みされる方は営農企画課(74-8345)までご連絡下さい。

生育に応じた適期中干しと、いもち病防除の徹底を!

1. 分けつを早期に確保する水管理と適期中干し

【分けつの発生促進】

○高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎を主体に穂数を確保することが重要です。本年はほ場により分けつの発生に差が見られることから、発生が少ないほ場では水管理を適切に行い、分けつの確保に努めましょう。

○最高気温が15℃以上の場合は浅水管理を、15℃以下の場合には深水管理を行い、水温と地温を高める管理を行います。

○分けつの発生は昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。かん水は水温の低い早朝に短時間でを行い、日中は止水管理を行ってください。

【適期中干し】

○目標穂数となる450本/m²が確保できたら、中干しを開始するようにしてください。

○中干しは、無効分けつの発生を抑えるとともに、根の活力を高めて1穂粒数と千粒重を増加させる効果があります。下記を参考に、生育状況を見ながら中干しを開始してください。

〈茎数と中干し時期・程度の目安〉

m ² 当たり茎数	中干し開始時期	中干し・溝切り	中干し後の管理
450本/m²程度 ○21.2株/m ² (坪70株)の場合 →平均茎数 21本/株 ○18.2株/m ² (坪60株)の場合 →平均茎数 25本/株	○440本/m ² 以上 →直ちに中干し ○440本/m ² 下回る →浅水管理や間断かん水で茎数確保	○中干し期間 (7~10日程度) ○軽くキレツ入り、 足跡がつく程度 ○溝切りの実施	溝切りを活用した間断かん水の実施

2. いもち病防除(オリゼメート粒剤の散布)

初期の発病を抑えることは、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、6月15日頃(6月12~18日)にオリゼメート粒剤を10a当たり2kg散布します。湛水状態で散布し、散布後4~5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しをしないでください。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への強力な伝染源となります。
ほ場に放置されている苗が散見されますので、直ちに処分して下さい。

3. 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

○主要加害種であるアカスジカスミカメは、イネ科雑草、ホタルイ類等の穂に産卵するため、これらの雑草が畦畔や水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が大きくなります。

○一発除草剤で雑草を抑えきれなかったほ場は、発生草種に応じた中・後期剤の散布を行ってください。

○斑点米カメムシ類の生息地を減らすために、農道や畦畔、休耕田、雑草地などの草刈りを出穂10~15日前までに数回実施します。